

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-25

編集後記

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

30

(開始ページ / Start Page)

96

(終了ページ / End Page)

96

(発行年 / Year)

1984-08-01

編集後記

「日本文学誌要」も三〇号を数えるまでに

なった。三〇号を一応の節目として、今回は日本文学科の教員全員で執筆するという今までになかった計画をたて、実行にうつして、その成果を得たのは、みな先生方の熱意と協力の現われとして編集委員一同感謝している次第である。小田切、益田の両先生をはじめ能楽研究所の先生方も参加され、論文に、エッセイにそれぞれの記念すべき原稿でこの三〇号を飾ることが出来た。

三〇号という数は国文学会機関誌の総目録によると、一九五七年の復刊第一号から数えた数字で、戦前の一九三二年に出た国文学会会報創刊号から考えると、会報として一、二、三号と続き、次には「誌要」となって第四号から九号まで続き、その次はまた「会報」、そして次に再び「誌要」となったりして、時によって「会報」となり「誌要」となっている。しかしその通巻ナンバーを見ると、会報、誌要共通した番号になっていて、刊行された時の内容による場合と頁数によっての変化のようにも思えるが、どうもその基準と

なる点が明確でない。そのためどこまでも復刊第一号を基準として、今後益々内容の充実を計って行う心算である。

本年から「誌要」とは別に「そとぼり通信」を随時出して行くことになった。幸いに第一号は好評であったので、本年度の総会当日第二号を配布出来るよう手配した。

「そとぼり通信」は誰でもが自由に、考えたことや近況、会員の活動の報告、在学当時の思い出等々四百字原稿二枚（題字は別）に書いて会宛にお送り頂きたい。一年間五〜六回位予定しているが頁数が限られているので長く書かれるとカットせざるを得なくなるので、この枚数制限は実行して頂きたい。

（鈴木和雄）

国文学会ニュース

一九八四年度総会は、六月三十日（土）午後一時から本校八三三番教室で開催されました。今年度からは講演・研究発表の充実を目指し、次の五名による発表が行われました。

勝又浩（大正大学教授）「引用について」

太田正夫（法政大学講師）「国語教育における文学作品の読みについて」

杉本圭三郎（法政大学教授）「能登守教経をめぐって―『平家物語』の人物像―」
武石保志（大学院博士課程三年）『砂の女』以前の安部公房」

飯倉哲朗（日本文学科四年）「島崎藤村論」
次いで、会務・会計報告、懇親会（家の光ビル）と行い、盛況の中に閉会致しました。尚、会則の一部（院生・学部生の年度会費について）が改正され、来年度より施行されます。詳細は95ページを御参照下さい。

一九八四年八月一日 発行

日本文学誌要 第三〇号

編集人 鈴木和雄

発行人 堀江拓充

東京都千代田区富士見二ノ
一七ノ一法政大学八〇年館

発行所 法政大学国文学会

電話〇三(264)九七五二

印刷所 新日本印刷株式会社
東京都新宿区市ヶ谷本村町二七